

館 浜 A 遺 跡

— 平成12・13年度 中山間地域総合整備事業渡島西南地区
第3農道改良工事に関わる埋蔵文化財発掘調査報告 —

2001・9

北海道松前町教育委員会

例 言

- 1

本書は、平成12・13年度に松前町が実施した中山間地域総合整備事業渡島
西南地区第3号農道改良工事に関わる埋蔵文化財発掘調査を報告するものであ
る。
- 2

発掘調査は、平成12年6月22日から平成12年8月22日までの期間実施し、整理
作業については平成13年5月7日から平成13年9月28日までの期間実施し、そ
れぞれ下記の体制で行った。
調査主体者：松前町教育委員会 教育長 成田 稔
調査担当者・調査員：文化財課調査係長 前田正憲
発掘調査作業員：河田敬子、竹内照子、松川笑美、槻館正子、皆月ユキ、浅見
千恵子、福井栄子、斉藤秋子、高橋キヌ子、坂本麗子、小平美奈江、松川由香、
平田順子、柴田誠子、阪本ひでみ、三浦文子、藤田友美、谷和子、兜谷キミ子、
柴田昭子、森隆子、小野寺フミ、青木ツタ（平成12年度）
整理作業員：河田敬子、竹内照子、松川笑美、槻館正子、皆月ユキ、木村真知
子、室田一美、船木のぞみ、伊川彩子、松谷圭子（平成13年度）
- 3

本書の編集・執筆・写真撮影は前田が行なった。
- 4

遺構実測図の整理・トレースは松川（笑）が行なった。
- 5

土器の復元・拓本・実測・トレースは河田、竹内、槻館、皆月、室田が行なっ
た。
- 6

石器の実測・トレースは木村、船木、伊川、松谷が行なった。
- 7

調査期間中、次の諸期間から御指導・御協力をいただいた。
渡島支庁、北海道教育委員会、渡島教育局、函館市教育委員会、七飯町教育
委員会、戸井町教育委員会、南茅部町教育委員会、木古内町教育委員会、知
内町教育委員会
- 8

調査に関する諸記録・資料は、松前町教育委員会が保存・管理する。

目 次

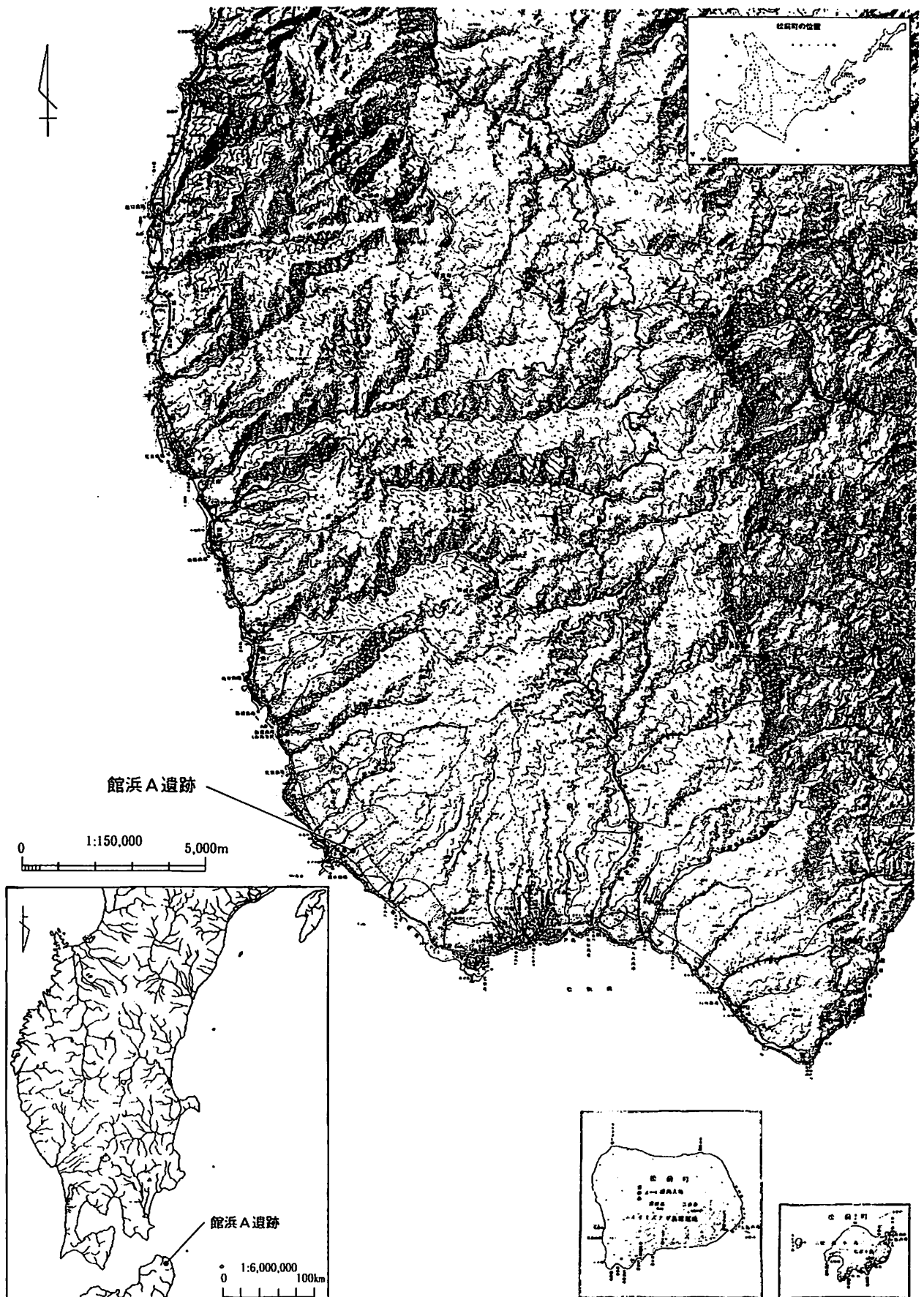
例言・目次	i	Ⅱ 調査結果	5
I はじめに	1	1 遺跡の概要	5
1 調査の経緯と経過	1	2 出土遺構	5
2 調査状況	2	3 出土遺物	6
3 調査の方法	3	Ⅲ まとめ	6
4 調査の成果	3	報告書抄録	12

挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図	ii	第3図 HP-1住居跡	4
第2図 遺跡配置図	2		

写 真 図 版

図版1 調査状況	7	図版4 土壙調査状況	10
図版2 HP-1調査状況1	8	図版5 調査終了状況	11
図版3 HP-1調査状況2	9		



第1図 遺跡位置図

I はじめに

1. 調査の経緯と経過

中山間地域総合整備事業（農道整備）は、基幹となる国道から、一般道路、そして町道、さらに林道がネットワークされ道路網が形成されている中で、農道エリアにおける未整備な路線について、それを改修整備することによって、農畜産物の生産効率の向上とともに地域の利便性を兼ね備えた農業基盤整備を行なうことを目的としている。今回この地区は、館浜集落から高台を結ぶ路線で、幅員が狭く、急勾配であり、営農の支障となっていることから計画された。

平成12年4月27日付け渡耕地第178号により渡島支庁（以下支庁）から道営中山間整備事業 渡島西南地区第3号農道改良工事にかかわる「埋蔵文化財保護のための事前協議書」が提出された。事前協議の段階で、計画路線は東側に「館浜A遺跡」が、そして西側には小川を挟んで有名な「イセバタケ貝塚」があり、隣接して遺跡があったので試掘調査が必要となった。北海道教育委員会（以下道教委）は、平成12年5月19日付教文第4068号により支庁あてに、埋蔵文化財包蔵地試掘調査の「通知」が、そして同号により松前町教育委員会（以下町教委）あてには、同じく試掘調査の「依頼」があった。

町教委は、道教委から事前に試掘調査を「依頼」する旨の連絡を受けていたことと、支庁から9月から着手したいので早急に遺跡の有無を確認してほしいとの要望から5月11日までに試掘調査を終え、5月18日付けで道教委に（B）埋蔵文化財確認調査報告書を提出した。試掘調査は、切り土工法地区1,500㎡について行い、4箇所から縄文時代前期の遺物が出土し、遺物散布地と考えられた。道教委は、平成12年5月31日付け教文第4103号により、支庁に発掘調査の必要を「回答」した。これにより切り土工法地区のうち、800㎡について発掘調査が必要となった。

支庁は、町教委が試掘調査を開始した時点で遺物が出土したことから5月10日付けで当該地区の発掘調査の委託依頼を松前町に要望し、松前町は6月12日付け松教文号でこれを受託し、実施計画書を支庁に提出した。そして、町教委は6月13日付け松教文号で道教委あてに発掘調査の「報告」を提出し、支庁は6月15日付け渡耕地第448号により土木工事のための発掘の「通知」を提出した。松前町と支庁は6月16日付けで発掘調査の委託契約を交わし、町教委は発掘調査を6月22日から開始した。なお、道教委から6月29日付け教文第5087号により支庁あてに発掘調査必要の「通知」と、町教委あてに発掘調査実施の「依頼」があった。

平成12年度については、発掘調査を実施したのみで、整理作業は行っていない。整理作業については、平成13年3月22日付けで支庁から松前町あてに整理作業の「依頼」があり、松前町は3月27日付けで実施計画書を支庁に提出した。そして、支庁から平成13年4月11日付け渡管理第88号により調査の委託依頼があり、松前町と支庁は平成13年4月13日付けで整理作業の委託契約を締結した。

町教委は、松前町の年中最大行事である「松前さくら祭り」のピークを過ぎた平成13年5月7日から整理作業を開始した。

2. 調査状況

平成12年度の調査状況：町教委は、松前町と支庁との委託契約が6月16日付けで締結した後、直ちに発掘調査の準備に取り掛かった。リース物品の手配や道具・器材を整えるとともに、6月20日から6月21日まで調査員が立合し発掘予定地の表土の掘削・運搬・捨て土工事を実施した。そして、調査のための方眼杭を設定し、発掘調査を6月22日から開始した。まず、表土剥ぎの残土の処理を人力で行い、翌23日から包含層（第Ⅱ層）の調査を行った。第Ⅱ層黒色土（黒ボク土）は、その上半からの出土遺物はほとんど無く、下半から出土する。次に第Ⅲ層漸移層の精査を行い、遺構のプランを明確にする作業を7月28日まで行った。次に遺構の調査を開始し、まず土塋を、次に住居跡の調査を行い、随時実測図を作成した。以上のように6月22日から開始した発掘調査は8月22日に終了した。

平成13年度の調査状況：遺物整理作業は、5月7日から開始した。まず水洗い・注記を行い、次に土器の接合・復元を行った。これに平行して石器の実測・トレース作業を行うとともに、遺構の実測図の第二原図を作成した。作業を開始して、予想の2倍以上の二次整理遺物があり、作業量が増加したため、契約金額の増額と期間の延長を6月13日付けで支庁に申請した。その結果、6月21日付けで承認を得ることができた。そして、土器の実測・トレースと遺構のトレースを行い、これらを台紙に貼り込んで図版原稿とし、報告書を作成した。以上のように5月7日から開始した整理作業は9月28日に終了した。

3. 調査の方法

方眼杭の設定は、SP-600地点のR-17をE-6ポイントとし、グリッドの基準点とした。座標値は X=-283481.572 Y=-16455.226である。方向はSPラインに沿ったものとし、北から南へA.B.Cとアルファベットの、西から東に1.2.3とアラビア数字を付け、グリッドの北西隅ポイントがグリッド名となるようにした。

出土した遺物は、各層位ごとに取り上げ、集中して出土した遺物は、実測後に各個体ごとに取り上げた。遺構から出土した遺物については、遺構に堆積する覆土の土層ごとに取り上げ、必要に応じ遺物の出土状況を実測し、レベルを測り取り上げた。遺構については、平面図・断面図等を作成した。遺構内の土層観察用の畦は、必要に応じ設定し、土層図を作成した。また、各グリッドラインに沿って土層観察を行い土層図を作成した。

これら遺構・遺物の出土状況や土層堆積状況は、すべて35mmリバーサルフィルムで撮影した。

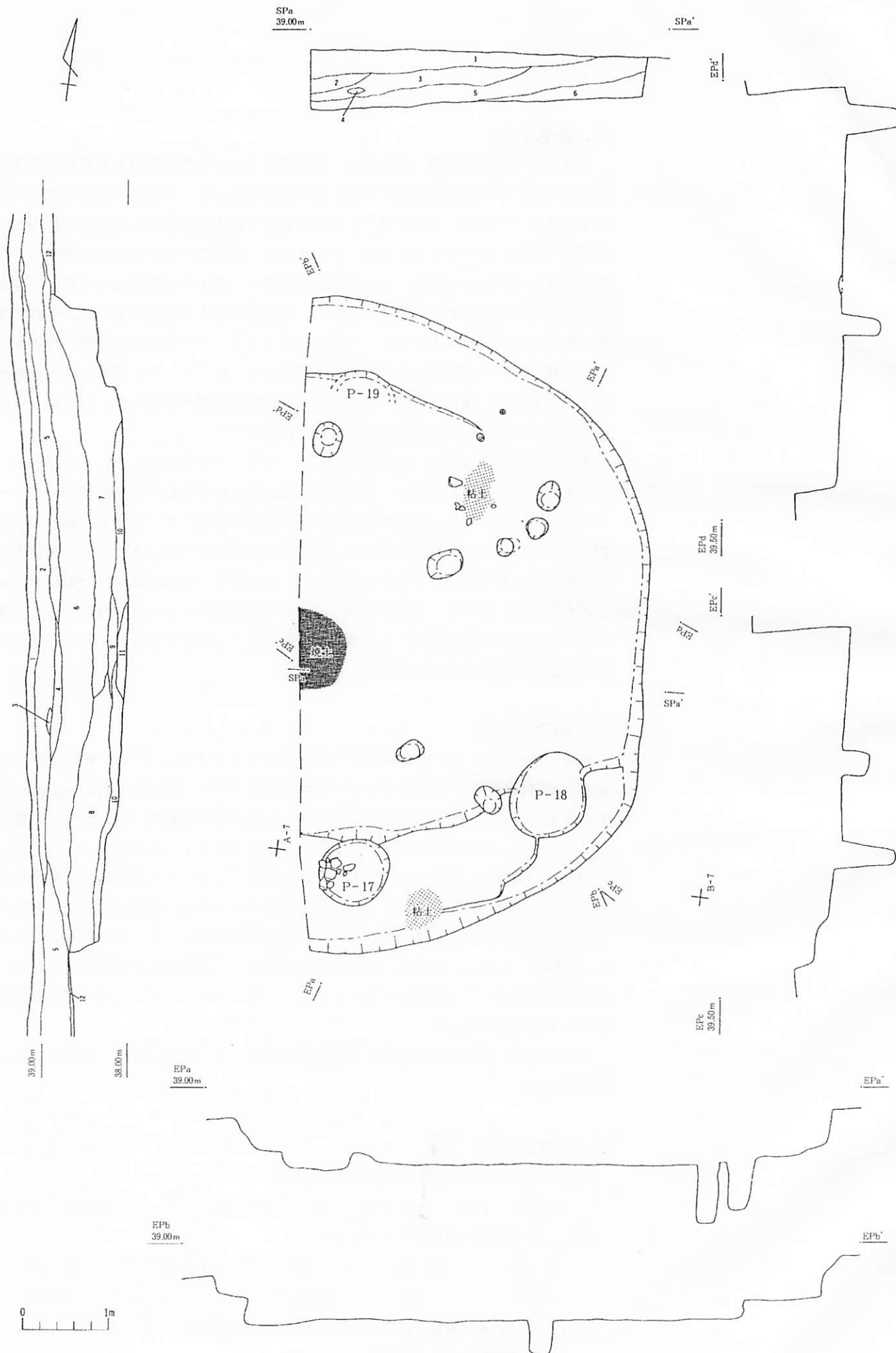
4. 調査の成果

800㎡の調査で出土した遺構は以下のとおり。

住居跡 1基 大型土塋 3基 中型土塋 3基 小型土塋 15基
また、出土遺物の点数は下表のとおり。

土 器	石 器	礫	その他	合 計
6,409	939	3,696	3	11,044

なお、出土遺構・遺物の詳細については、「Ⅱ 調査結果」で述べる。



第3図 HP-1住居跡

Ⅱ 調 査 結 果

1 遺跡の概要

K.W. (海岸段丘、縄文早期～後期、縄文前期集落跡)

館浜 A 遺跡は、松前市街の西方約 6.5km の松前町字館浜にある。発掘調査を行った地点は標高 35～38m で、海岸段丘の中位面(瀬川 1955)端部にある、縄文時代前期の集落跡である。この調査地の沢を挟んで西側にはイセバタケ貝塚があり、東側に隣接して館浜 A 遺跡がある。今回の調査地は、東側に隣接する館浜 A 遺跡をもって遺跡名とした。

イセバタケ貝塚については、大正 13 年に北海道庁が刊行した『北海道史蹟名勝天然記念物調査報告書』で、河野常吉氏が伊勢畑砦址として報告している。主には大正の調査当時ここに存在していた土塁を報告しているが、その中に「石鏃土器類」の出土が往々にしてあると述べている。その後昭和 26 年に河野広道氏が発掘調査を行った。字館浜 381 番地を調査し、試掘調査を行って、貝塚の下に竪穴住居跡を発見したのでその住居跡を発掘したようである。出土遺物は岩礁性貝類と獣骨を含む貝塚の下から人骨も出土し、土器は余市式・円筒上下層式が出土したとの内容が、昭和 27 年度の松前町教育委員会文書に記されている。この調査地点は、今回調査した地点と小川を挟んで 50m 程しか離れていない。

さて、この館浜地区には、イセバタケ貝塚をはじめ館浜 A～F・トノマ遺跡など 8 箇所 of 遺跡が知られており、海岸段丘の中位から下位面にかけて分布する。こうした分布傾向は、町内全域にかけて認められ、遺跡の年代によって高度差がある。海岸段丘の中位から下位面にかけては縄文時代前期・中期が多く、下位面から低位面にかけては縄文早期・晩期そして擦文時代の遺跡が多い。さらに海岸付近の低位面には、縄文晩期と続縄文時代の遺跡が分布する。

2 出土遺構

K.W. (ベンチ状遺構、大型土壇、オーバーハング)

抄録

縄文時代前期の竪穴式住居跡が 1 基と、大型の土壇が 3 基、中型の土壇が 3 基、そして小型の土壇が 15 基発見された。土壇は住居と同時期かやや古い可能性があり、大型・中型土壇は、上屋構造を持つ遺構の可能性も考えられる。小型の土壇は壁面がオーバーハングする。

1) 住居跡

HP-1 壁に添ってベンチ状の遺構を持つ住居跡である。中央に炭化物が堆積し、その下から地床炉が発見された。ベンチ状の遺構に、3 基の土壇が発見された。住居跡の周辺から発見された土壇と規模・内容が良く似ている。そして、住居跡から

発見された土壌の覆土は、住居跡の外で発見された土壌の覆土と比較し、非常に硬かったため、土壌の方が古く、住居跡の方が新しいと思われる。住居跡の床面からの出土遺物は非常に少なく小片であるため、住居の構築時期の決定要素に欠くが、覆土から出土した土器を概観すると、縄文時代前期中頃、円筒下層式の初期前後位と思われる。

2) 土壌

土壌は、その形態によって次の3種類に分けられる。

- ・大型でプランが円形ないし不定形のもの：P-11.14.16) これらは柱穴と思われる小穴が床面に発見された。遺構の確認面から、非常に浅い位置に発見された。出土遺物が非常に少ない。
- ・中型でプランが方形ないし不定形のもの：P-10.13.15) これらのうち、P-15) は壁ぎわに柱穴と思われる小穴が3箇所発見された。また、P-10) の床面に柱によるとと思われる円形の沈下跡が発見された。
- ・小型でプランが円形のもの：P-1~9.12.17~21) 共通点は、掘り込み面の直径より底面の直径の方が広く、壁面がオーバーハングすることである。

構築時期は、小型土壌については、住居跡の例から縄文時代前期前半に入ると思われるが、大型・中型土壌については判然としない。しかし、P-15) とP-16) の切り合い関係からみれば、中型土壌の方が古い可能性がある。

2 出土遺物

K.W. (縄文前期中頃主体、東釧路Ⅳから十腰内Ⅰまで、円盤状石製品)

抄録

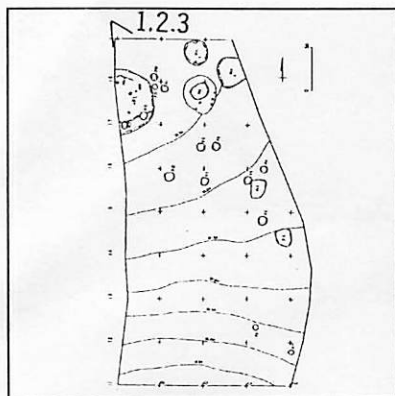
幅広く出土しているが、主体となる土器以外は、非常に少量である。出土した遺構と相関関係にあり、土器・石器とも矛盾しない。

土器：総点数が6,409点で、重量が125.2kgであった。

石器：剥片石器は、石鏃12点、石槍9点、つまみ付ナイフ17点、スクレイパー又はナイフ22点である。礫石器については、石斧7点、石冠12点、すり石139点、くぼみ石2点、石皿23点である。なお、刻線の入った安山岩の円礫と、泥岩製の円盤状石製品が出土した。

Ⅲ ま と め

今回調査した地区は、東西の両側に大規模な遺跡があり、確認調査での予想をはるかに上回る内容であった。また、町内で発見される縄文時代前期から中期にかけての遺跡は、条件が良く似ている。海岸段丘の中位面と下位面の界あたりに集中しており、台地の縁近くや、小さな沢のある近くには、必ずといって良いほど所在することを、あらためて認識した。



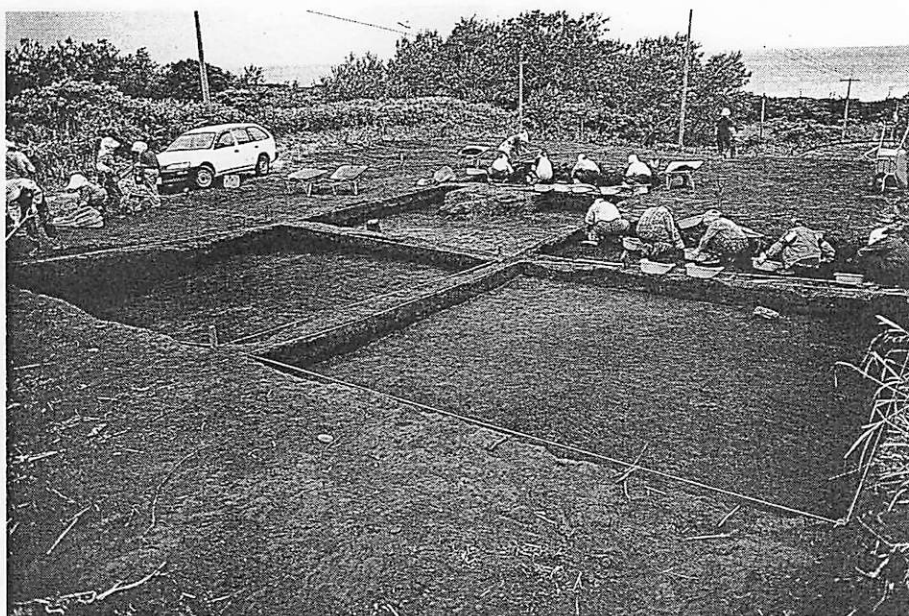
1

調査状況 重機による表土剥ぎを行なった後、人力で第Ⅱ層上面まで剥ぎ取った。



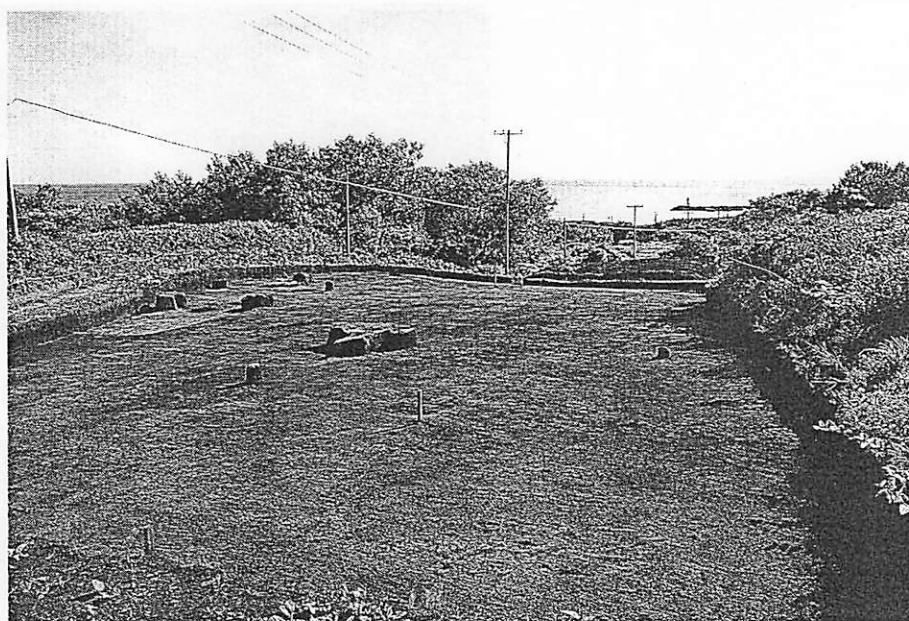
2

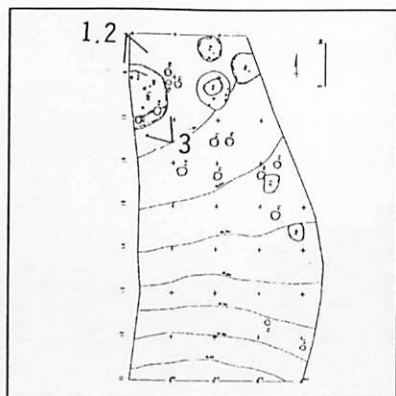
調査状況 第Ⅱ層（黒ボク土）の調査をしている。



3

調査状況 第Ⅱ層除去後、遺構のプランを確認した。右側にHP-1のプランが認められる。





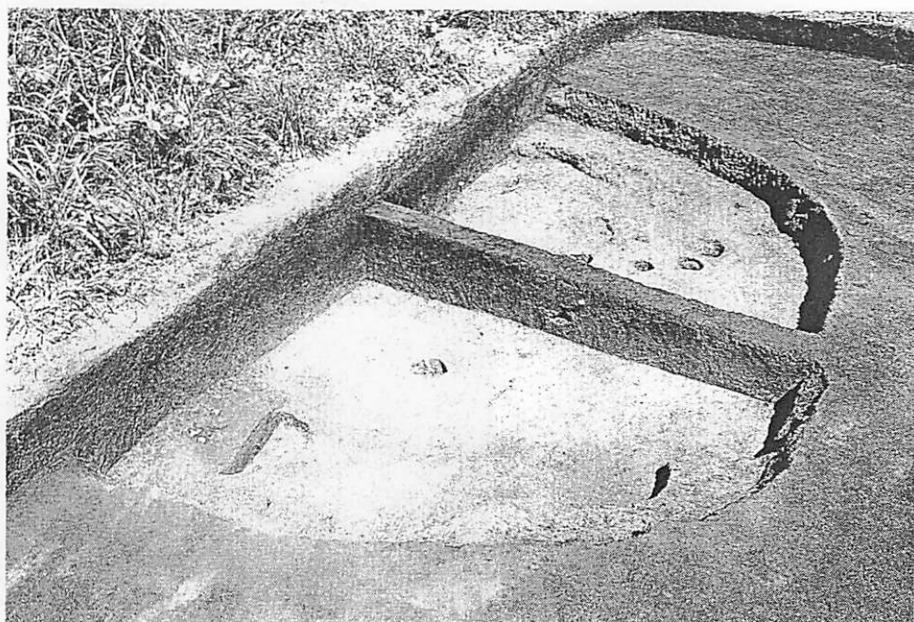
1
覆土遺物堆積状況 概ね円筒下層
式の末頃の遺物が堆積している。

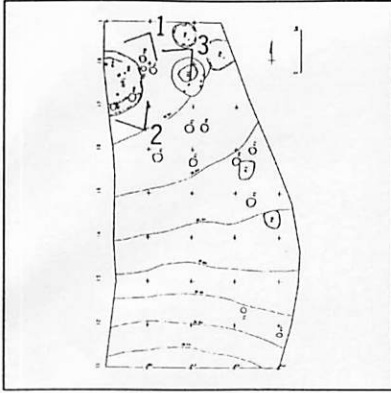


2
床面検出状況 ベンチ状の遺構を
伴う竪穴式住居跡である。



3
土層堆積状況 覆土上位には円筒
下層 d 式が、中・下位には円筒下
層 b、c 式相当の土器が出土する。





1

完掘状況 ペンチ状遺構にある土
壙は、その覆土がかなり硬かつた
ので、土壙の方が古いと思われる。



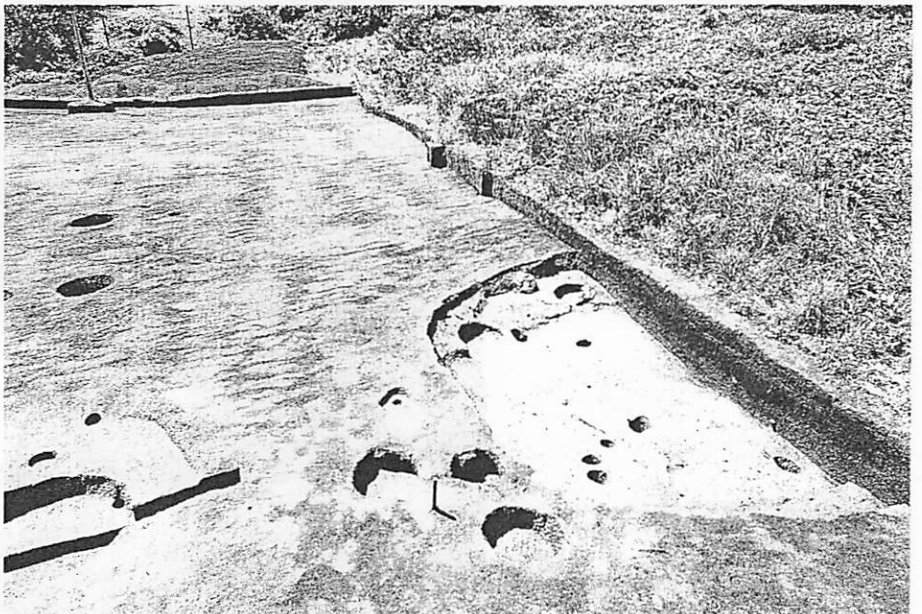
2

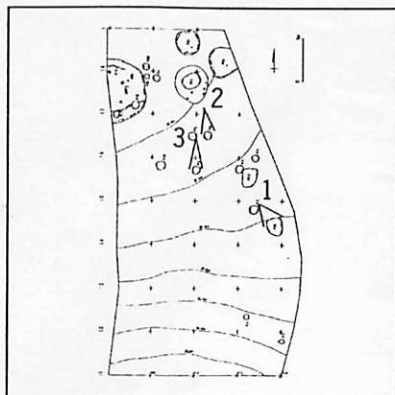
完掘状況 住居跡床面の中央に焼
土と炭化物が堆積している。また、
床面に粘土の塊が二ヶ所発見され
た。



3

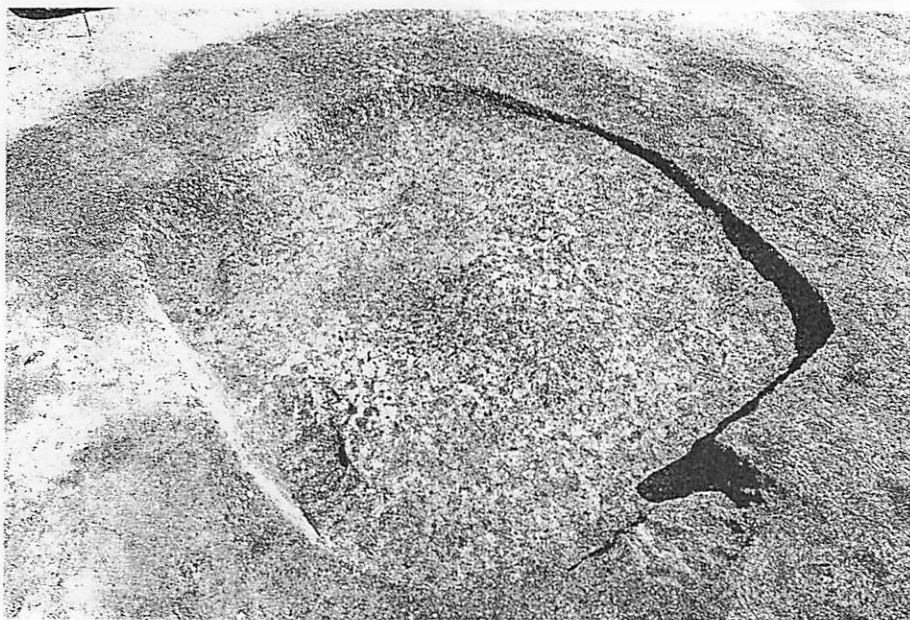
完掘状況 住居跡のプランは円形
に近いものと思われる。





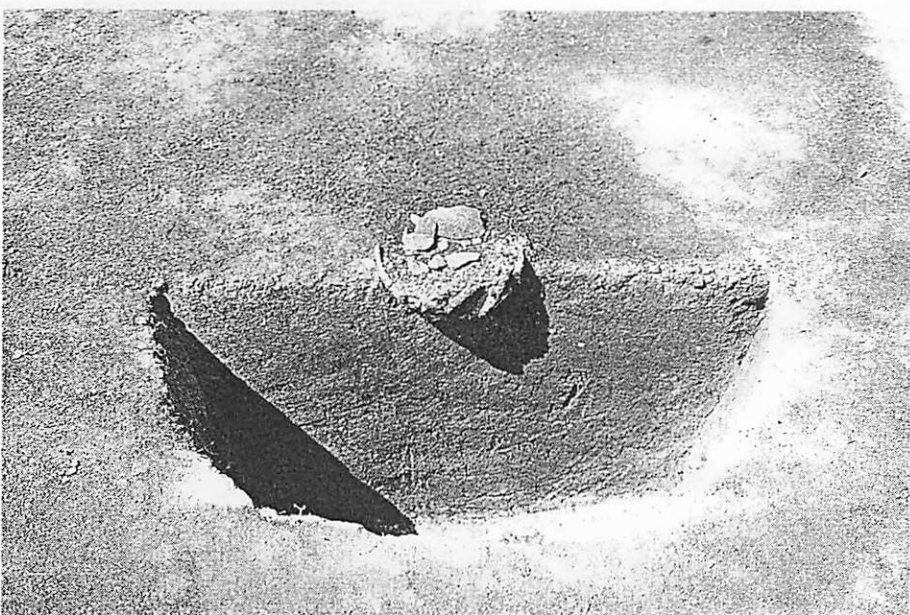
1

P-10完掘状況 プランが方形で
床が非常に硬い。床面に柱による
と思われる沈下跡が認められる。



2

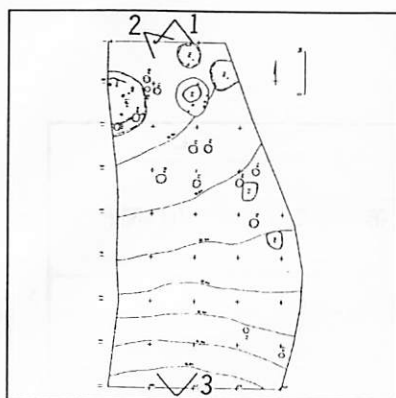
P-8覆土堆積状況 上部中央に
縄文前期前半の土器が埋設されて
いた。



3

P-3完掘状況 土壌の床面に硯
が置かれている。





1

右側がHP-1で中央左側にP-15が見える。



2

P-11,P-14,P-15が並ぶ。P-11,P-14は浅い掘り込みであるが床面は硬く、壁の立ち上がりも明確であった。



3

調査区の南側斜面のⅢ層とⅣ層の界面に、粘土質で乾くとかなり硬くなる土層が、薄く広範囲に堆積していた。



報告書抄録

ふりがな	たてはま いせき							
書名	館 浜 A 遺 跡							
副 書 名	平成12・13年度 中山間地域総合整備事業渡島西南地区第3号農道改良工事に関わる埋蔵文化財発掘調査報告							
巻 次								
シ リ ー ズ 名								
シリーズ番号								
編 集 者 名	前 田 正 憲							
編 集 機 関	松前町教育委員会							
所 在 地	北海道松前郡松前町字神明30番地						TEL.01394-2-3060	
発 行 年 月 日	平成13(2001)年9月27日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コ ー ド		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調 査 原 因
たてはま いせき 館浜 A 遺跡	ほつかいどうまつまえ 北海道松前 郡松前町字 たてはま 館浜	01331	B-02-85	41度 26分 50秒	140度 3分 10秒	20000622 ~20000822	800	道路 (農道改良工事)
所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項	
館浜 A 遺跡	集落跡	縄文前期	住居跡・土塋等		円筒土器、石器等		縄文早期末から後期までの遺物が出土。	

館 浜 A 遺 跡

平成12・13年度中山間地域総合整備
事業渡島西南地区第3号農道改良工
事に関わる埋蔵文化財発掘調査報告

発 行：平成13年9月27日

発行者：北海道松前町教育委員会

印 刷：カジャ印刷

館浜 A 遺跡

—平成 12・13 年度 中山間地域総合整備事業渡島西南地区 第 3 農道改良工事に関わる埋蔵文化財発掘調査報告— 電子版

2025 年 2 月 20 日 第 1 刷

発行者 北海道松前町教育委員会

〒049-1594 北海道松前郡松前町字神明 30

TEL:0139-42-3060／FAX:0139-42-2211

WEB:<https://www.town.matsumae.hokkaido.jp/bunkazai/>

MAIL:bunkazai@town.matsumae.hokkaido.jp

底本：館浜 A 遺跡

—平成 12・13 年度 中山間地域総合整備事業渡島西南地区
第 3 農道改良工事に関わる埋蔵文化財発掘調査報告—
(2001 年 北海道松前町教育委員会発行)

この電子書籍は閲覧を目的としているため、不鮮明な図版や誤字が含まれる場合があります。必要に応じて、お近くの図書館等で底本をご利用ください。